

チャオ・ベトナム

J A P A V I E T N A M 会 報

NO.50

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2015年10月30日

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ◆2015年ベトナム視察ツアー.....1 | ◆フンチュン診療所と もっと明るい日を望む ..5 |
| ◆見知らぬ社会 Bu Dang.....2 | ◆ジャパ・ベトナムツアーに参加して6 |
| ◆2度目の参加3 | ◆寄付者一覧、お知らせ7 |
| ◆ジャパ・ベトナムツアーを通しての気づき...4 | ◆会計報告8 |

2015年ベトナム視察ツアー

小野 浩美

8月20日（木）～9月2日（水）まで、ベトナム視察ツアーを行いました。

日本から9人、ベトナムから4人が参加しました。4人のベトナム人に通訳をしていただきました。このツアーは、ジャパ・ベトナムの支援先を訪問する目的で、毎年行っています。

どなたでも、希望の期間で参加できますので、是非ご参加ください。

①8/22～24 HCM→カマウ省→HCM

- ◆ダイハイ道路拡張
- ◆ゴーコン家建築
- ◆聖ヨセフ小学校

②8/25～27 HCM→ピンフック省→HCM

- ◆ロンディエン少数民族子供寮
- ◆ブダン少数民族ヤギバンク

③8/28～29 HCM市内

- ◆エイズ診療所
- ◆スラム自立支援グループ
- ◆エイズ子供支援グループ

④8/30 HCM→ゲアン省→ハノイ

- ◆フンチュン診療所

⑤8/31 ハノイ→タイグエン省→バックニン省 →ハノイ

- ◆もっと明るい日を望むグループ

（◆は訪問した支援先です）



ジャパ・ベトナムは、カンボジアと国境を共有している Binh Phuoc 省 Phuoc Long 県のある施設で、長年間、活動してきたが、この間、隣の同省 Bu Dang 県を訪れることになった。そのきっかけは少数民族の多い省であり、住民の生活に必要な家、飲み水、食料、子供の教育などが極端に不足しているからだ。

今年二回目、Bu Dang 県 Dang Ha 村に入り、村人とその子どもたちに出会って、その状況の大変さに驚かされた。私はベトナム中をよく訪れたが、Dang Ha 村で受けた印象はどこまで現状に近いだろうかと疑い、3 年前に暮らした事のあるベトナム人の知人に確認してみた。

Dang Ha 村はカトリック信徒が多く、彼らは毎日、朝早くカテキスタという宗教教育者リーダーの指導の下に素朴な聖堂でお祈りをする。続いて、住まいへ戻り、僅かなご飯や小魚、時に森林で拾ったカシューナッツ等で朝食を済ます。ゲストには時々コーヒーを出す。しかし村には飲み水がなく、浅い井戸の水を使い、匂いが強くて汚い。全ての料理にもその水を利用して、都会からやってきた若者は滞在中お腹を壊していたと語っていた。朝食を終わり太陽が上がり始まる頃に畑へ出かけ、仕事をやり始める。ある人は遠くへ水牛の餌を探し求め、あるいは家族同士で相互に畑の協同作業をする。

食事が出るだけで賃金がない。人の足はとも古い Honda で、安いガソリン売りの店も存在している。村の住民は Stieng 族だが、ガソリン、様々な物品を売っている店の持ち主は Kim 族の人たちに決まっている。

Stieng 族の人達は今までにあまり学校に行く機会がなく、彼らの言語で書かれた書物もない。日常生活において自分たちの言語を使い、子ども

もたちの簡単な学校教育はベトナム語(Kim 族の言語)で行われている。よく訪れているシスターたちは子どもたちと村人の「健康管理」、教育などを行っている。数年前、近くにある Thong Nhat 村の教会は近代的な飲料水を作る設備の施設を作り、Dang Ha 村も含めて 5,000 人ほどのために、きれいな水を、毎週、配給している。



(Thong Nhat 町の教会の飲料水施設)

実は、Dang Ha 村で活動をしている HCM 市のある団体からジャパ・ベトナムに声が掛けられ、村の人たちの経済的な自立を助けるために、村人が行えるプロジェクトが出された。ヤギを飼うプロジェクトだった。すでに私たちは別の場所で「牛銀行」作りに支援を行い成功した経験があり、関係者と討議した結果、「ヤギ銀行」作りの支援を始めた。もう今ごろは、数か所の貧しい家庭に 2 匹のヤギが配給されることになる。冒険伴うようなプロジェクトで、これから皆さんにその行方を伝えるのは楽しく感じる。



(Dang Ha 村の山羊プロジェクト)

2 度目の参加

岬 心一

ジャパ・ベトナムの支援先訪問ツアーに参加したのは今年で2度目です。ツアーを終えて今振り返ると、実りいっぱいの旅となったと思っています。前回の参加では主に北部だけでしたので今回は南部の方をまわることができて少し新鮮な気持ちでした。新たな場所と現地の人達との交流もでき今回のツアーは自分にとりものすごく有意義なツアーだったと感じています。

今回の訪問先で僕にとって大きく印象に残ったのは Bu Dang を訪問中の宿泊先での出来事とサイゴンでの HIV 患者訪問でした。

僕にとって Bu Dang の訪問は今回初めてで、その晩宿泊先のホテルの周辺を探索し、その帰りにある少女と出会いました。歩いて宿泊先へ戻る途中、僕の後ろからカチャカチャという音が聞こえてきたので、後ろを振り向くとなにやら棒を持った少女がこっちに向かって歩いていました。最初はなぜ棒を持っているのか不思議に見ていましたが、段々近づいてきた時に初めてそれが目の不自由な人のための杖であると分ったのです。右手に杖を持ち、左手には宝くじの束を持っていたのです。ベトナムでは今でも子供たちが生活の糧の為に宝くじをあちこち売り歩いてまわっていて、彼女もその一人だったのです。



普通の人でさえ猛スピードで走る車、整備の悪いこの道に気を付けながら歩かなければならないのに、目の見えなような小さな女の子が歩いているなんて僕にとっては信じられない光景でした。彼女は僕の横を通り抜

僕は姿が見えなくなるまでその場に立ち止まって考えていたのです。もし自分だったら彼女みたいにこんな危険な道を目も見えずに歩いてここで暮らしていくことができるのだろうか…。

その後、サイゴンに戻り HIV/AIDS 診療所、患者の集まりを訪問することになりました。

ここでは HIV 患者の若者たちと交わりの場に居合わせることができました。皆が自分の現在の生活状況や過去の体験を快く分かち合ってくれました。普通に仕事をしている人もいれば体調がすぐれずに仕事ができない人もいます。



僕は質問すべきか少し戸惑いながら彼らに聞く事にしました。一つ目は、「自分が HIV に感染したとわかった時の心情はどうだったのか?」、二つ目は「自分のした事に後悔はあったのか?」です。ある人は「自分が感染したとわかった時は自殺を考えた。しかし今となっては何一つ後悔等していない」という事でした。自分がしたことに責任があり過ちであったが前を向いて生きるしかないと明るく答えてくれました。その中で自分の境遇に悲観的で嘆いていた人は誰一人いませんでした。恐らく彼らは、自分のしてきたことを嘆いているよりも現状を受け止め楽しく喜びをもって生きることを選択したのだと私は感じ身の引締まる思いでした。

今回の旅に参加せずいたら生まれ得なかった彼女彼ら達との出会い、僕はいろんなことに気づかされ、そして勇気を頂きました。

ジャパ・ベトナムツアーを通しての気づき

笹木 安奈

東南アジア地域で初めて訪問した国が、今回ジャパベトナムのツアーで行ったベトナムだ。仕事の兼ね合いで今回このツアーには3日間のみの参加となった。あまりベトナムに対しての知識を持っていないまま参加してしまった為、現地で受けたカルチャーショックは大きかった。

何と言ってもベトナムに着いて驚いたのは、道路に奔めき合うバイクの数。道を渡る時は命がけである。到着した日は、支援先への訪問予定はなかったため、半日観光をする事になった。空港まで迎えに来て下さったスタッフによって、HCM市のカテドラルである聖マリア大聖堂を案内していただいたり、ベントイン市場での値段交渉の仕方、ベトナムの社会情勢等について知る機会となった。

2日目の午前中は支援先である Nhom Tieng Vong プロジェクトを訪問。日本では AIDS 患者が増加傾向にあるとニュースで聞かすが、自分の身近な環境ではそのような人々と接触する機会はないので、その実感はない。診療所のベッドでやせ細った患者の方が栄養剤を投与されながら横たわっているかと思えば、治療薬のおかげで回復し、診療の手伝いまで出来ている人もいるという報告を聞いたときは、医療の進歩に驚くばかりだった。

2日目の午後は Van グループプロジェクトを訪問。障害者グループと AIDS 感染者グループの二手に分かれて支援先を訪問した。私は AIDS 感染者グループを訪問し、グループメンバーの健康状態について、現在無料配布されている HIV 薬の無料配布打ち切り時期について等の情報を共有した。HIV に感染している患者の方から直に話を日本で聴く機会はかなりの確率で低いので、とても貴重な体験だった。

一番驚いたのは感染したことを今は後悔して

いない、とそのメンバーが全員口を揃えて答えた事だった。終始明るい雰囲気でも落ち着いたいたのが意外で、私自身は患者の方々と接触する前に身構えていたのだなと振り返った。AIDS という病を抱えながらも逞しく冷静に生きている彼らと、健康には問題がなく恵まれた環境下に生きている私が抱えている悩みなんて本当に小さいものであり、思い煩わなくて良いものに頭を悩ませている事に気づいた。

3日目の午前中は、AIDS に感染した子供、またはその家族の子供たちを支援するボランティア団体のスマイルグループを訪問。偏見による差別や、満足のいく教育を受けられていないケースが多いという。子供たちの教育サポートに重点を置くのは勿論大切なことだが、その子供たちのバックグラウンドである家庭のあり方についても変えていく事が重要になっていくと感じた。

3日間だけであったが普通の旅行では中々できない、現地の人々との交流や AIDS 感染症患者から直接話しを聴くという体験は、私の人生においてかなりのインパクトがあったことは間違いない。今回のツアーを通してベトナムという国がとても好きになり、経済成長が著しいこの国がこれからどのように変わっていくのか、共に歩みながら見守っていきたいと思った。



「フンチュン診療所」と「もっと明るい日を望む」グループ

小野 浩美

<フンチュン診療所>

「今年のうれしいニュースは、新しい病棟の工事が始まったことです」開口一番ダオ先生から発せられた言葉です。「書類を書くのに忙殺されてきました」何度書類を書き直し、当局と話し合いを重ねてきたのでしょうか。長い苦勞の末に工事が始まったことをしみじみとかみしめる想いが伝わってきました。振り返ってみると、国の支援で2階建ての新しい病棟を建てる話が出されたのは、2011年に訪問した時です。'12、'13年のジャパ・ベトナムの支援は病棟建設後に実行すると棚上げされ、事態の推移を見守る中4年を経て今年ようやく工事が始まったのです。棚上げされていた支援金は新しい庭の整備と病棟の設備に使うことで合意しました。

フンチュン村は人口1万人の貧しい村であり、診療所は30年前に作られました。年に220~240人の出産があり、又患者の多くは女性や子供です。レントゲン機もない中でできる診療は限られ、20Km離れた病院に患者を送ることが何度もあったと思います。病棟建設の理由についてダオ先生は「病院の負担を減らしたかった」と語っていますが、この診療所でもっと治療ができればと考え申請に踏み切ったに違いありません。しかし新しい病棟はできましたが、中身の医療機械はまだ何もありません。2025年まで目標を立て、簡単な手術も行えるように少しずつ医療器具を備えていくと彼は話しています。

ダオ先生は医科大学卒業後、故郷にあるこの診療所勤務を希望しここの担当になりました。その理由はいろいろあったようですが、この貧しい村に生きる人々の医療に役立ちたいという気持ちが根底にあったと思います。ここが村人の健康に一層貢献できる場になれる様、今後も応援していきたいと私は考えています。

<もっと明るい日を望む・グループ>

バックニン省でエイズ自助活動を行う「もっと明るい日を望む」グループを見学し、お話を伺いました。このグループは、病院で感染がわかったHさんが病院からエイズ活動グループを紹介され、2003年に身内や友人6人でグループを立ち上げたことから出発しています。感染がわかった人が連絡できる電話番号を病院に置き、相談を受けてきました。病気について情報を提供し、家族へも一緒に話をしました。12年間続ける中で、メンバーは大人200人、子供300人まで広がり、5つの小グループに分けて毎月1回集まりを持っています。メンバーのほとんどは女性と子供ですが、夫が麻薬注射から感染し先に亡くなったケースがほとんどです。残された母子は、職場での差別や解雇、子供が学校に行けないなどの問題を抱え、人として当たり前の生活ができる様お互い助け合いながら奮闘しています。直接会って話を聞く中で、問題を実感的に受け止めることができました。感染を知った時、多くの方は死にたくなるほどつらい気持ちになるものです。そんな中で他の感染者にも思いをさせ、グループを立ち上げたHさんは本当にすごい人だと思いました。そしてここまでメンバーが増えたということは、潜在していたニーズを掘り起こしたことに他なりません。今後も何らかの形で力になりたいと、考えています。



ジャパ・ベトナムのツアーに参加して

村山 良忠

ベトナムに行くのは今回で3回目だった。今回、ジャパ・ベトナムが支援をしている対象を巡るツアーに参加したのは、これまでの観光では絶対に行けない所にも行け、ベトナムの別の面をみることができると思えたからだった。

ベトナムの南端カマウ省の海岸部に住まう人々の家を訪問した時には、マングローブの林に囲まれたジメジメした地面に、家が点在していた。人が住んでいる証は自転車だったり、洗濯物だったりする。そうした物がなければ廃屋とも思ってしまっただけかもしれない。このあたりの人々は、海に出てわずかなばかりの魚を獲って暮らしを立てているようだ。どのようにしたら生活が成り立つのか想像もつかない。

カンボジアとの国境地帯であるピンフック省では少数民族が置かれている状況を見ることができた。ホーチミンからピンフック省までは舗装された広い道が整備されていた。しかし、一步脇道に入ると赤褐色の土がむき出して、雨が降ったりすると、辺り一面泥の沼ができてしまう。最初に訪ねた村は、外部からの支援で、小規模な野菜の農園を造ったりしている。こうした村の状況を反映しているのだろう、子どもたちの服装は粗末で、多くは裸足なのだが、明るく人なつこい。井戸があって地下水脈から水をくみだすことができる。それでも飲料には適さないのもそれ以外の生活用水に用いられるという。では飲料水はどうするのか。天水を集める設備があるようにも見えなかった。意外なことに村長の家にはソーラーパネルがあって、そこから生まれる電力でテレビを見たり、スマホに充電したりするらしい。

ハノイ近郊のバクニンではHIV感染者やその家族を支援する活動を見学した。恥ずかしいが、私はこの病気についてはほとんど無知だった。ベトナムにたくさんの感染者がいることも知らなかった。

HIV感染者やその家族は、コミュニケーションによる自立の途をさぐっていた。バクニンの市街で路上喫茶店を開いてHIV感染者が集う場を作っているグループ、農村部で感染者やその家族の共同体を作って問題に取り組む人たち。私は活動に係わっている人が圧倒的に女性なのを見て、「男は活動に加わろうとはしないのですか」と無知を重ねた。「男は死んでしまっていることが多い。」というのが答えだった。最後に行った農村部の人の家にも、麻薬の注射からAIDSを発病して若くして亡くなった夫の遺影が飾ってあった。

帰国して、もう1か月以上経ったがベトナムで見聞したことの整理はつかない。だが、ベトナムでいろいろ見ながら常に考えていたのは、ホームレスのこと、アイヌ・琉球民族のこと、日本のHIV感染者のことだった。あることは知ってはいても、深く考えてはいなかったように思う。日本のことも分かっていないのに、ベトナムのことが分かるはずもない。でも、ベトナムのことが少し分かれば、日本のことも少し分かるような気がする。かなうことならば、これからもいろいろ教えてもらうためにベトナムに行きたいと思う。

ジャパ・ベトナムのツアーの日程の合間にできる限りそれぞれの地の路地と市場をさまい歩いた。どうしてそんなに好きなのか自分でもわからない。最後に、その趣味の1枚を。



* ご協力ありがとうございます *

2015年4月6日～2015年10月16日までの会費・寄付納入者のお名前です(敬称略)

青沼 酉子	品川区
Anh Ngoc	兵庫県
飯田 幸子	足立区
イエズス会社会司牧セン ター	千代田区
逸見 裕一	さいたま市
岩田 瑞枝	川崎市
Vu Thi Phuong	兵庫県
小沢 昌子	
柏村 忠志	土浦市
Nguyeh Van My	兵庫県
Nguyen Thanh Vu	兵庫県
Nguyen Thanh Vu	藤沢市
Nguyen Thi Ngai	兵庫県
Nguyen Thi Thanh Hoa	兵庫県
Nguyen Thi Tam	兵庫県
Nguyen Thi Mau	兵庫県
栗栖 幸江	広島市
五井 邦宏	さいたま市
小池 美恵子	国分寺市
高野道郎メモリアル	港区
ILBS国際福祉協会	港区
Ngoc Anh	兵庫県
櫻井 實・優子	つくば市
佐竹 道子	茅野市
佐藤 みどり	練馬区
篠原 由紀子	武蔵野市

渋谷 節子	足立区
白坂 博美	武蔵野市
聖母訪問会モンタナ 第 二修道院	鎌倉市
関本 浩平	横浜市
武市 英雄	相模原市
武永 蘭	杉並区
田野 実	川口市
出村 俊輔	三郷市
Do Van Muoi	兵庫県
戸村 信子	長崎市
鳥井 恵子	兵庫県
中嶋 俊之	江戸川区
中野 孝文・宇多子	川崎市
根岸 寿	神戸市
Ha Thi Kinh	兵庫県
畑中 雅信	清瀬市
原 悌二郎	世田谷区
平井 裕	新宿区
Ho Khen	兵庫県
宮坂 淑子	さいたま市
村田 光司	那覇市
元橋	
守口 恵子	小金井市
山本 喜代子	練馬区
山本 昌子	杉並区
Le Thi Phuong	兵庫県
Long Linh	兵庫県

お知らせ

・2015年ベトナム支援先訪問ツアー

「報告会、講演会、ミニ・コンサート」開催します。

講演 「ベトナムのゾウと私」 新村洋子さん

2015年11月28日(土曜日) 13:30～15:30

四谷・岐部ホール 305号室

参加費 500円(飲物、御菓子付き)

◆◆◆会計報告◆◆◆

(2015年4月6日～2015年10月16日)

募金会計		活動費会計	
収入		収入	
一般会費	429,823	活動費寄付	33,000
賛助会費	0	バザー売上	0
助成金*1	660,000	ツアー残金	0
普通利息	100	雑収入	0
雑収入	0	小計	33,000
	0	支出	
小計	1,089,923	活動費	17,990
支出		印刷費	0
支援金*2	2,210,000	文具資料費	432
送金手数料	0	通信費	17,768
小計	2,210,000	小計	36,190
前期繰越金	1,149,793	前期繰越金	28,444
当期収支	▲ 1,120,077	当期収支	▲ 3,190
次期繰越金	29,716	次期繰越金	25,232

* 1 助成金： 660,000 円

- ◆高野道郎メモリアルジャパナムプロジェクト
 - ・少数民族子供寮へ 100,000 円
 - ・聖ヨセフ小学校へ 100,000 円
 - ・エイズ子供ケアへ 100,000 円

◆国際福祉協会

- ・少数民族ヤギバンクへ 360,000 円

* 2 支援金： 2,210,000 円

- ◆スラム自立 (HCM 市) 300,000 円
- ◆エイズ診療所 (HCM 市) 300,000 円
- ◆エイズ子供ケア (HCM 市) 110,000 円
- ◆少数民族子供寮 (ビンフック省) 300,000 円
- ◆少数民族ヤギバンク (ビンフック省) 150,000 円
- ◆聖ヨセフ小学校 (ハウザン省) 300,000 円
- ◆家建築 (カマウ省) 290,000 円
- ◆エイズ家族ケア (バックニン省) 100,000 円

*前号 No.49 活動費会計に誤りがありましたので訂正します。

前期繰越金 (正) 24,804 円 (誤) 20,804 円 / 次期繰越金 (正) 28,444 円 (誤) 24,422 円

JAPA VIETNAM をご支援ください

- 一般会費 年間1口 (2000円) 以上
- 賛助会費 金額・時期ともご自由に
- 活動費寄付 活動費の支援 (金額自由)

どれになさるかはご自由にお選びください。
ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。
会費をお振込みいただいた方には、振込の半券
で領収書とさせていただきます。領収書
が必要な方は、振込用紙の通信欄の「領収書
必要」の口にチェックを入れてください。
事務費削減にご協力いただけると幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100 - 8 - 118761
JAPA VIETNAM

◆
【銀行をご利用の場合は】
三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店
東京女子医大出張所 (店番 315)
普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

会報名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」(chào) とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたいという、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム
(日本ベトナム民間支援グループ)

JAPA VIETNAM

(Japanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1

岐部ホール4階

イエズス会社会司牧センター内

◆
電話 03-5215-1844

FAX 03-5215-1845

◆
e-mail:japavietnam2014@gmail.com

http://www.japa-vietnam.org/